

- ② 市の8事業を外部評価
- ③ 起業スクールを開講
- ④-⑤ **特集** こども食堂  
笑顔あふれるみんなの居場所
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ



## 夏はやっぱり 河原でBBQ

この写真は手ぶら  
バーベキューの食材  
ではありません

相模川の河川敷は、家族や仲間とバーベキューを楽しめる人気スポット

### 手ぶらバーベキュー

**日時** 8月11日～27日の金曜～日曜  
9月9・10・16・17日  
11時～16時

**費用** 4人以上1人 3500円～  
(ごみ処分を含む)

※器材、食材などのオプションあり。持ち込み可。  
7月3日から実施日の4日前までに、電話  
で市観光協会バーベキュー専用受付☎221-3338へ。先着順。



基本セット(グリル、炭、テーブル、牛・豚・鳥肉、焼きそばなど)



広々とした相模川の河川敷

### 同時開催 アユのつかみ取り

**時間** ①10時30分～  
(10時受け付け)  
②14時30分～  
(14時受け付け)

**対象** 小学生以上

**費用** 1人 1000円  
(アユ1匹と塩焼き代金含む)

7月3日から実施日の4日前までに、スポーツ  
エントリーのホームページまたは電話で☎0570-  
550-846(平日、10時～17時30分)へ。先着順。



「お肉焼けたよ」「おいしそう」。初夏の日差しが心地よい休日の昼間、相模川の河原は、多くのバーベキューを楽しむ人でにぎわっています。

市では、本厚木駅からほど近く自然豊かな相模川を貴重な観光資源の一つと位置付け、平成24年に「相模川厚木市水辺拠点創出基本計画」を策定。水辺の景観や自然環境に配慮するとともに、川を生かしたレジャーなど、厚木の新たな魅力づくりの検討を進めてきました。8月には「手ぶらバーベキュー」と「アユのつかみ取り」(左欄参照)の社会実験をスタート。気軽にバーベキューを楽しめる新たなレジャースポットを目指していきます。バーベキュー会場のすぐ北側にある、小鮎川の水辺では、アユのつかみ取りが同じ日に開催されます。子どもも大人も一緒になってアユを捕まえることができ、取ったアユはその場で塩焼きにして食べることもできます。

「バーベキューは好きだけど準備をするのが大変」という本橋春樹さん(42・元町)は「手ぶらでできるなら、気軽に家族や友人を誘って来てみたい」と期待を寄せています。

太陽が輝く季節。夏の日の思い出づくりに、バーベキューとアユのつかみ取りはいかがですか。

問 河川ふれあい課 ☎225-12381



Zoom Up

皆さんの声を市政に

# 市の8事業を外部評価

今年も、行政運営の効率化や事業の改善を目的に、市民の皆さんの声を市政に反映させる「市民参加型外部評価」を開催します。市民の皆さんならではの視点で、市の事業を点検・評価していただき、市政の透明性の確保と市民サービスの向上につなげていきます。

外部評価は、まちづくりへの市民参加を進める取り組みとして平成20年から始まり、今年で10回目を迎えます。評価するのは、大学の教授や有識者、公募市民など5人の評価委員と、無作為に選ばれた約60人の市民モニターです。市が実施する1000を超える事業の中から、委員らが評価対象となる事業を選定。委員と事業を担当する職員との質疑応答を通じて、目標に対する

達成度や市民の満足度、必要性などを踏まえて検証します。

## ネット配信や電子投票も導入

外部評価は公開の場で開催され、傍聴席も設けられます。また、議論の様子は、インターネットで配信。パソコンやスマートフォンなどからも視聴いただけます。さらに、視聴者を対象とした電子投票も実施します。直接会場に行けなくても、気になる事業があれば、自分なりの意見や事業に対しての評価を手軽に市に届けることができます。外部評価で出された意見は、

## 評価の結果を事業に反映

評価の結果は、市の行政評価委員会で審議し、最終的な評価として決定します。これにより、事業内容の見直しや予算措置などに反映されます。

これまでの実績として、平成28年度に対象となった年末年始公共施設無料開放は、「無料にする必要性がない」「利用状況から有料化する施設も検討



会場は、誰でも気軽に立ち寄れる開放的な場所で開催

### 三つの評価区分

評価区分	判断基準
現行どおり	現行の事業内容を継続
要改善	事業内容、方法、対象者、期間、予算などを見直し
廃止	事業の廃止を検討

### 市民目線で事業を評価



外部評価委員  
安達 和年さん(59)

外部評価委員を務めて9年。今まで、100を超える事業の評価に参加してきました。委員は、市民の目線で市の事業を客観的に評価する重要な役割を担っています。対象となる事業もできるだけ市民の生活に直接関わる事業を選んでいきます。

市政に市民の意見を取り入れることはとても大事なことです。皆さんも是非、外部評価に足を運んでいただき、市政に関心を持ってもらえればと思います。

28年度の外部評価に市民モニターとして参加した長谷川一博さん(68・愛甲)は「市民のための事業を市民が意見・評価し、より良い形にしていこう」とはとても良い仕組みだと思ふ。参加したことで、まちづくりが身近なものに感じられた」と感想を述べます。市では今後も、市民協働による行政運営を積極的に進め、市民の皆さんが満足できる行政サービスの提供に努めていきます。

### 夏休みも規則正しい生活習慣を

## 早ね・早おき・朝ごはん

元気な体をつくるため「早ね・早おき・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活習慣を心掛けましょう。

社会教育課 ☎225-2513

**早ね** 脳や体の成長を促す成長ホルモンには一定周期のリズムがあります。元気で強い体になるために、早寝は大切です。

**早おき** 太陽の光には、脳の覚醒を促す効果があります。昼間に活発に動くために、早起きをして太陽の光を全身に浴びましょう。

**朝ごはん** 夜寝ている間にも多くのエネルギーを消費します。朝から元気に活動するために、毎日しっかり朝ごはんを食べましょう。



### 夏の暑さから身を守ろう

## 熱中症対策を忘れずに

7月は「熱中症予防強化月間」。熱中症から体を守るためにも、正しい知識を身に付けましょう。

- ✓ のどの渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分補給
- ✓ 帽子や日傘で暑さを避け、涼しい服装を
- ✓ エアコンなどを適度に使用し、室内環境を整えよう
- ✓ 体調の変化に注意して、無理をしないようにしましょう



炎天下の作業は特に注意

熱中症にかかったら、涼しい場所で体を休め、水分・塩分補給をしましょう。症状が重い、改善されない場合は、救急車を呼びましょう。

健康長寿推進課 ☎225-2174

行政経営課 ☎225-2160



## プログラム内容

- 第1回 経営者の心構え、ビジネスコミュニケーション
- 第2回 創業者のための基礎知識（人材育成）、マーケティング戦略（販路開拓）
- 第3回 会計の仕組み、売上の立て方、先輩創業者体験談
- 第4回 利益計画・収支計画の立て方、必要資金及びコスト把握
- 第5回 資金調達、創業者向け融資等の紹介、ビジネスプランの作成・個別アドバイス
- 第6回 ビジネスプランの発表・講評

## Q Zoom Up

厚木でビジネスチャンスをつかめ

# 起業スクールを開講

「自分の店を持ちたい」「アイデアで事業を立ち上げたい」。そんな思いを後押しするあつぎ起業スクール(以下スクール)が、今年も始まります。経営のプロたちが創業のノウハウを丁寧に指導。あなたの夢をサポートします。

## 受講者の声

人とのつながりをつくれるのが魅力

ヨガスタジオを開業  
一之瀬 有理さん(40)



初めはオープンできるのかとても不安でしたが、スクールで起業に成功した先輩の生の声を聞き、「自分にもできる」と勇気づけられました。同じ目標を持つ仲間や、同じように悩み苦労して起業した先輩たち、起業後にも指導を受けられる専門家の皆さんとつながりを持つことが何よりも大きな財産になりました。先生方には今も会計の面などで相談に乗ってもらい、とても助かっています。



夢の実現には、やりたいと思う気持ちだけでなく、困難に飛び込む勇気が必要だと思います。スクールは、私の背中を押してくれた良ききっかけとなりました。

自分に合ったアドバイスが得られる

歯科技工士として独立  
大山 昇さん(44)



勤めていた会社を辞めることが決まり、開業までの準備期間が約3カ月と大変短い中で受講しました。基礎的な知識もなく、全くのゼロからのスタートでした。



スクールに通っている間に融資の申し込みが必要になるなど、目まぐるしい日々を送りました。一番不安だったのが資金調達でしたが、先生方に融資の受け方から私に合った事業計画の作成までの確かなアドバイスをいただき、なんとか開業にこぎつけることができました。また、スクールを修了したことで、創業資金の融資を受ける際の信用保証枠の拡大など国からの支援を受けることができ、大変助かりました。

今年で10回目を迎えたスクールでは、これまでに366人が受講し、57人が飲食業や販売・製造業など、さまざまな分野で夢を実現させています。市では、スクールを通して個人の創業を促し、雇用の確保をはじめ、新たな人材の育成やまちの魅力づくり、産業の活性化につなげています。

## 創業支援のプロがサポート

プログラムでは、起業時に必要な知識はもちろん、起業後の経営に必要なノウハウを基礎からしっかり学ぶことができます。経営者としての心構えから融資の利用方法、ビジネスプランの作成や、利益計画の立て方、マーケティング戦略、人材育成など、全6回で構成されます(左上に記載)。

講師は、税理士や中小企業診断士、経営コンサルタントといった経営分野の専門家たち。数々の受講生を創業へと導いてきた経験を踏まえ、希望業種や年齢、資金など一人一人の状況に応じ、きめ細かいアドバイスをします。また、同じ志を持つ仲間や先輩から刺激を受けることができるのもスクール

## 修了後も継続的に支援

希望者には、スクール修了後も個別のフォローアップ相談を実施します。事業を立ち上げる準備の中の疑問や悩みに対してアドバイスをするなど、継続的にサポートをします。

さらに、資金面では創業に必要な融資に対し、利子の一部を補助。そのほか、スクール修了者には市が証明することで、創業に関する融資を受ける際の信用保証枠の拡大や、株式会社などの設立登記に必要な登録免許税の軽減措置といった国の支援制度を活用いただけます。

## 夢の実現に向けて

ひと口に「起業」と言っても、「上手くできるだろうか」「失敗したらどうしよう」などと不安を抱く方も多いため、すべてが順調に運ぶとも限りませ

産 業 振 興 課 ☎ 225-2832

## あつぎ起業スクール受講者募集

- 日時** 8月26日、9月2・9・16・30日、10月7日(全6回) 13時～17時
  - 会場** 厚木商工会議所
  - 内容** 左上に記載
  - 対象** 市内で起業予定または起業後1年以内で、全日程に参加できる方30人(書類選考あり)
  - 費用** 4000円(テキスト代含む)
- ☑ハガキ、ファクスにて住所、氏名、年齢、電話番号、受講動機(50字以上)、志望業種、託児利用(無料)の有無を書き、8月10日(必着)までに〒243-8511 産業振興課 ☎ 225-2832・☎ 223-7875 へ。先着順。☎ 172154

## “起業したい” “働きたい” あなたを応援します

起業  
したい

### 開業に必要な資金調達を支援

創業資金を借り入れた場合、「創業者支援利子補給金」として利子の一部を補助します。

《対象》①市内で開業し営業を継続②日本政策金融公庫から創業に必要な融資を受けている③融資実行日の前後6カ月以内に開業④市税を完納一の全てを満たす方

《金額》支払済利子(延滞に係る利子を除く)の2分の1(6カ月10万円を限度、1000円未満切り捨て) 《期間》融資実行月から24カ月

☑申請書(☎からダウンロード可)に必要な事項を書き、必要書類を添え、直接、産業振興課 ☎ 225-2832 へ。

働  
きたい

### 合同就職説明会 同時開催 就職説明会活用セミナー

市内の求人企業が一堂に会し、事業内容を説明します。企業情報の収集・活用方法を提供するセミナーも開催します。

《日時》7月6日、13時～16時

《会場》厚木商工会議所

《内容》市内と近隣企業による就職説明会(個別相談あり) 《対象》平成30年3月卒業予定の学生(高校生除く)から満39歳までの求職者。☑当日直接会場へ。

☑厚木商工会議所 ☎ 221-2153







下長谷こども食堂ではカレーを提供。交流しながら一緒に食事をする



利用者みんなで協力して配膳準備をするのがASHLの食堂の特徴

### 特別ではない場所へ

湘北短期大学  
生活プロデュース学科 専任講師  
沖潮 満里子さん (36)

子ども食堂は、もともとは貧困の子どもを支援するという目的で生まれたものですが、最近では厚木市のように、対象を限定せず多世代の交流に軸を置くものも多くあります。地域でのつながりが希薄化する中、子どもの孤立を防ぐためには、より多くの人に開かれた場が必要。そのためには、食堂が地域にとって「特別な場所ではない」ことが大切です。子ども食堂がここまで広まった背景には、場所や食材があれば始められるという手軽さがあります。ですが、人手や食材の確保ができず、短期間で閉じてしまっただけでは逆効果にもなりかねません。継続するためには、食材などの寄付や運営の手伝いなど、たくさんの方の助けが必要になります。何か困った時に頼れる人がいる、そんな相手とのつながりを持つ場所を絶やすことなく継続していくためには、地域や団体、行政が協力し合うことが大切です。

近年では、共働きやひとり親世帯などの家庭環境により、子どもが一人で食事を取る機会が増えています。こうした子どもたちの「孤食」を防ぐと地域の有志が開いたのが、子ども食堂の始まりです。子ども食堂所づくりや貧困対策、コミュニティ作りなど、さまざまな目的で開かれ、その数を増やしています。

市内では、子どもに限らず地域住民が気軽に足を運び交流できる「開かれた居場所」として、三つの団体が特徴ある食堂を開催しています。

子どもたちに気さくに声を掛けるのは「下長谷こども食堂」のスタッフの皆さんです。月に一度食堂を開催し、集まった地域住民に手作りのカレーを提供しています。

「夜遅く、外に一人でいる子やコンビニの前でたむろする子たちを見て危機感を持った」と話すのは、下長谷こども食堂の代表・小金義春さん(70)。防犯パトロールや自治会活動を通して地域の子どもを見守ってきた小金さんは、子どもたちが

子どもたちに声を掛けて回る葉山さん

市内の公共施設を周って開催する「ASHLあつぎ子ども食堂」には毎回、スタッフとは別に「子どもたちのために何かしたい」という思いを持ったボランティアが集まっています。調理を手伝ったり、子どもの遊び相手になったりと、支援の形はさまざま。代表の葉山修次さん(36)は「食堂を長く続けるためには多くの人の協力が不可欠。少しでも手助けしたいと考えている方は、ぜひ力を貸してほしい」と呼び掛けています。

初回から、子どもたちに絵本の読み聞かせなどをしていく広田ゆみさん

「こつちもおいしいよ」「野菜もたくさん食べてえらいね。学生が子どもたちに優しく声を掛けるのは、「あつぎYMCA子ども食堂」です。主催している厚木YMCAは、スポーツや介護などに関するプログラムを企画・運営する団体。各分野で学び、活躍する学生や職員が、自分たちの専門性を生かし、趣向を凝らした食堂を企画しています。

5月の食堂のテーマはスポーツ。中心になったのは、団体が運営する専門学校で子どもに水泳や体操を教えるながら保育士や幼稚園教諭を目指す学生たちです。当日は、学生が考えた野菜たっぷりの鶏の照り焼き丼が提供され、食後はダンスや球遊びなど、体を動かして楽しめるゲームが催されました。

「学生たちに、食堂を通して食への意識を高めてほしい」と話すのは、同校で教鞭をとる奥田訓子さん(46)。「昼食をお菓子だけで済ませてしまう学生が多いことに驚き、危機感を覚えた奥田さんは、校内の生徒に呼び掛け、子ども食堂を運営するボランティアスタッフを募集。集まった学生たちは、メニューを考えたり調理をしたりと、食堂の開催に向けて準備を進めました。「自分のためだけでなく、誰かのために料理をすることで、食事への関心を高めてもらえ」と思った」という奥田さん

### 市民協働提案事業

地域が抱える課題の改善に、市民活動団体と市が協力して取り組む制度です。

《採用事例》  
あつぎ素敵美術館事業/食育フェア事業/落書き消去活動等体験事業 地域住民と落書きの消去活動

市民協働推進課 ☎225-2141

## 子ども食堂

子どもたちがたくさんの人と食卓を囲める場所として開かれる「子ども食堂」が、全国で広がりを見せています。今回の特集では、市内で立ち上げられた三つの子ども食堂を紹介。それぞれの食堂が目指す形や運営に携わる人々の思いに迫ります。

あつぎ 元気Wave ケーブルTV7/11~ 食堂の様子を紹介

### 学びと食育の場にも

安心して過ごせる居場所の必要性を強く感じました。子ども食堂を知ったのは、妻の千恵子さん(67)が見たテレビのニュースがきっかけでした。誰もが必要とする食を安価に提供する食堂は、子どもたちが集まる場所として理想的と考え、早速夫婦で動き出しました。

小金さんの呼び掛けに、自治会や子ども会、民生委員など16人が賛同。4月の開店に向け、メニューや周知方法などの話し合いを重ねました。

食材となる野菜を畑で育てたり、チラシや会場に飾るのれんを作ったりと各自が準備を進め、迎えたオープンの日。「子どもたちは集まってくれるのだろうか」という小金さんの不安をよそに、地域の親子5組15人が、お腹をすかせてやってきました。

友達やスタッフとおしゃべりしながらカレーをほおぼる子や、世間話に花を咲かせる親たちの姿に、食堂が子どもの場となる手応えを感じた小金さん。「これから徐々に実績を積み、本当に助けを必要とする子どもたちを取り込んでいくことが目標。食堂をきっかけに、見守り支えてくれる大人が身近にいるのぞかを知ってもらえたら」と意欲をのぞかせます。

(52) 恩恵は「子どもたちの笑顔、自分も笑顔になれる。ちょっとしたお手伝いが地域の子どもたちのためにしていることがうれしい」と目を細めます。「食事しながら子どもたちの話し相手になってくれるだけでも十分。頼れる人が近くにいると知ることが、食堂が子どもにとって安心できる場所となる」と話す葉山さん。多くのボランティアの参加が、活動の幅を広げると説明します。「ボランティアの方にはここでの経験を生かして、『自分も子ども食堂を始めよう』と思ってもらえたら。そうやって子ども食堂が毎日のように、いろんな地域で開催されればうれしい」と期待を膨らませます。

学生にメニューを聞きながら、おかずを選んでいく子どもたち

### みんなおいでよ! 子ども食堂

下長谷こども食堂	あつぎYMCA子ども食堂	ASHLあつぎ子ども食堂
日時 7月9日、15時~20時 (17時30分までは学習時間)	日時 7月14日 17時30分~19時30分	日時 7月18日、17時30分~21時
会場 長谷第二自治会館	会場 YMCAあつぎ保育園ホサナ	会場 玉川公民館
対象 下長谷在住の方30人	対象 乳幼児、小・中学生と保護者50人	対象 小・中学生と保護者50人
☑当日直接会場へ。先着順。	☑当日直接会場へ。先着順。	☑当日19時30分までに直接会場へ。先着順。
☑下長谷こども食堂 小金 ☎247-7447	☑YMCAあつぎ保育園ホサナ ☎222-8619	☑市民団体 ASHL 葉山 ☎050-5277-3519

いずれも 費用は子ども100円、大人300円

子ども食堂では、食材やボランティアなどのご支援を受け付けています。詳しくは各子ども食堂へご連絡ください。



## 若い力でまちを活性化 にぎわいアドベンチャー隊23人を任命



まちの活性化に一役を担うアドベンチャー隊任命式。東京工芸大学2年の押切千華さんは「大学で学んだことをまちづくりに役立てたい」と意気込みを話しました。

市内の大学に通う学生たちがまちの活性化に取り組み「あつぎにぎわいアドベンチャー隊」の任命式が5月23日に開催され、23人の隊員が任命されました。

アドベンチャー隊は、市街地の活性化に取り組むプロジェクトの発案で結成して、今年で10年目。これまで、本厚木駅周辺のカフェやラーメン店を紹介するガイドマップを作成したり、話題性のあるイベントを開催したりしてきました。

東京工芸大学2年の押切千華さんは「大学で学んだことをまちづくりに役立てたい」と意気込みを話しました。

今後は、市や同プロジェクトと連携し、まちの活性化に向けて取り組んでいきます。

## 火災発生時のトイレを確保 市と環境みどり公社が防災協定

市と公益財団法人環境みどり公社がこのほど、「火災時における仮設トイレの貸出し等に関する協定」を結びました。20時間にも及ぶことがある消火活動時に、消防隊員や地域の皆さんが利用できるトイレを確保することで、スムーズな消火活動と被災者の安心につなげていきます。



火災時に被災者へ安心を提供

貸し出されるのは、幅1.5m・高さ2.6mの広さで、男女兼用の洋式トイレ1台。くみ取りやトイレレットペーパーの補充などもみどり公社が行います。

締結式には、鈴木教公理事長(写真右から3人目)が出席し、小林市長と協定書を取り交わしました。鈴木理事長は「安心して消火活動に専念する一助になれば」と思いを語っていました。



## 初夏の風物詩

### 相模川などでアユ釣りが解禁

6月1日、川に夏の到来を告げるアユ釣りが解禁されました。相模川・中津川・小鮎川の三川合流点付近などでは、この日を待ちわびていた多くの釣り愛好家たちが早朝から長い釣竿を操り、10〜18センチほどのアユを次々と釣り上げていました。

相模川は、全国でも有数のアユ釣りのスポット。今年



解禁日の早朝から釣竿を垂らす太公望たち

は、約1500万匹と例年以上に天然アユの遡上(さかのぼり)が確認され、豊漁が期待されています。

毎年、解禁日にアユ釣りに来ているという笹本利男さん(66)は「今日は朝5時ごろから始めて、30匹釣れた。これから先が楽しみ」と笑顔で話していました。

## 泥まみれで真剣勝負

### 南毛利南地区でどろんこバレーボール

大学のサークル仲間と参加した稲葉健悟さん(19)は、「泥で体が重くて思い通りに動けなかったが、思い切り飛び込んでボールが取れた時は最高に気持ち良かった」と満面の笑みを浮かべていました。



泥を跳ね上げて熱戦を展開

5月28日、南毛利南地区の水田で「どろんこバレーボール大会」が開催されました。52チーム、約300人が参加し、泥まみれになりながら、熱戦を繰り広げました。

大会は、田植え前の水田で、土との触れ合いを通じて地域の交流を深めようと同地区青少年健全育成連絡協議会が主催し、今年で9回目になります。約600平方メートルに用意された二つのコートには、10歳から60歳まで幅広い世代の参加者が集結。ゲームは小学生の部と一般の部に分かれて4人制のトーナメント形式で競われました。

## ATSUGI X NEW ZEALAND ホストタウン通信

### 日本代表として活躍するために

市出身で日本代表候補にも選ばれた女子ラグビー選手・中丸彩衣さん(23)が昨年の11月から3カ月間、NZへ短期留学していました。きっかけは、リオデジャネイロ五輪。日本代表が強豪国相手に苦戦する姿に世界で戦う厳しさを感じ、「代表で活躍するために、トップレベルの環境で練習したい」とNZへの留学を決意しました。

中丸さんは「現地では言葉や生活のリズム、日本で経験したことのないトレーニングなど、文化や練習方法の違いに戸惑うことが多かった。厳しい環境の中で自分を追い込んだことで、精神力が鍛えられたことが大きな財産になった」と振り返ります。

市では、こうした若い世代の夢を実現するため、本年度よりNZ留学体験プログラムなどの教育交流事業の実施を予定しています。

2020年東京オリンピック・パラリンピック(東京五輪)に向けて、ホストタウンとなったニュージーランドとの交流事業などを紹介します。



クリーンキャンペーンで参加者と

6月にアユ釣りが解禁となり、「母なる川」が活気づいてきました。解禁前の5月28日には、県央相模川サミットを構成する6市町村が合同クリーンキャンペーンを実施。相模川・中津川・小鮎川が流れを重なる河川敷で、約2600人がごみ拾いや草むしりに汗を流しました。

太公望が釣り糸を垂らすと、いよいよ夏が近づいてきます。三川合流点は水遊びやバーベキューを楽しむ

はなりません。川を管理している県では洪水浸水想定を作っています。豪雨が台風シーズンには想定を超える豪雨も否定できません。

先日、消防、警察、自衛隊と連携し、豪雨による橋の崩落を想定した訓練を行いました。市民の皆さんの生命と財産を守ることは私の責務です。考えうる危機にしっかりと向き合い、誰もがふるさとの清流に愛着を持って環境を築いてまいります。

人で連日にぎわい、まつりには花火会場としてたくさん笑顔があふれます。8月から始まる「手ぶらバーベキュー」の試行は、この場所をさらに盛り上げたいという意気込みの表れです。

魅力満載の相模川ですが、一方で自然の一部であることを忘れてはなりません。川を管理している県では洪水浸水想定を作っています。豪雨が台風シーズンには想定を超える豪雨も否定できません。



# タウンガイド

7月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

**マイタウンクラブ**  
 ①印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「①印」と記されたものは、申し込みもできます。  
 ②=申し込み ③=問い合わせ  
 ④=電話番号 ⑤=ファクス番号  
 ⑥=Eメール ⑦=市ホームページ  
 ⑧=GENKI ポイント対象事業

## 厚木市民朝市

毎週日曜、5時30分～7時。文化会館駐車場。市内産の農産物や加工食品などを販売。7月30日には、特別市「鮎まつり協賛朝市」を開催。②農業政策課 ☎225-2801。③



## あそぼう!まなぼう! まめの木タイム

7月12日、11時～12時。森の里児童館。「秘伝!手遊びの秘密☆親子で楽しむ遊びの時間」をテーマに、子どもの発達を促す手遊びを保育士と学ぶ。②当日直接会場へ(駐車場はありません)。③療育相談センターまめの木 ☎225-2252。④

## 「忙しいあなた!」にも出来る料理教室 ～パパッと作る! 時短メニュー～

7月29日、10時～13時。あつぎ市民交流プラザ。冷蔵庫にある食材や旬の食材を使って、短時間でも簡単に作れる料理を学ぶ。市内在住在勤在学の方20人。500円(材料費)。託児あり(1歳～小学3年生。要予約)。②直接、電話またはハガキに〒住所、氏名、電話番号、託児・アレルギーの有無を書き、7月12日(必着)までに〒243-8511市民協働推進課 ☎225-2215へ。抽選。③162952 ④10

## アミューあつぎハンドメイドマルシェ

7月22日、10時～15時。アミューあつぎ。約20店舗によるアクセサリーや洋服、雑貨などの手作り品の販売、ワークショップ。③商業にぎわい課 ☎225-2834。④1



## 斎場施設見学会

7月15日、10時30分～12時。市斎場。施設の見学と葬儀の説明。定員30人。無料。②7月1日から市斎場 ☎281-8595へ。先着順。③1

## 中央公園でセミの羽化を観察しよう

7月29日、18時40分～21時。郷土資料館集合。定員25人。無料。②往復ハガキに催し名、〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、7月23日(必着)までに〒243-0003寿町3-15-26郷土資料館へ。抽選。③172096 ④1

## ブックスタート

①7月19日、10時30分～11時30分。あつぎ市民交流プラザ②7月22日、10時30分～11時30分。中央図書館③8月2日、11時30分～12時。保健福祉センター④8月16日、10時30分～11時30分。あつぎ市民交流プラザ。読み聞かせの方法や年齢に応じた絵本を5分程度で紹介し、1冊進呈。市内在住で平成28年4月2日以降に生まれた赤ちゃんと保護者(赤ちゃん1人につき1回)。生後4カ月頃からが最適。無料。母子健康手帳をお持ちください。②当日直接会場へ。都合の悪い方は、事前に予約の上、毎月第2・3木曜の11時～12時、14時～15時の間に、中央図書館でも受けられます。③中央図書館 ☎223-0033。④1

## 宅地建物取引業協会の相談会

7月22日、10時～16時。宅地建物取引業協会県央支部。専門家による法律や税金、不動産取引などの相談(要予約)。無料。③宅地建物取引業協会県央支部 ☎224-6561。

## 平和へのメッセージを募集

戦争と平和について皆さんと意思を共有するメッセージを募集します。《提出方法》福祉総務課や図書館などにあるハガキやポストカードに、戦争や平和への思いを描いた絵や文と、思いを共有したい人の

## 秋の厚木路を駆け抜けろ

# 2017あつぎマラソン

**開催日** 10月22日(荒天中止)

**発着点** 荻野運動公園

**定員** 2000人(先着順)

### 種目・対象

- ①3<sup>キロ</sup>の部 = 市内在住在学の中学生
- ②10<sup>キロ</sup>の部・ハーフマラソンの部 = 一般・高校生  
 ※10<sup>キロ</sup>は60分、ハーフマラソンは120分以内で走れる方

**参加費** ①無料 ②3000円(高校生1000円) 起伏に富んだコースが特徴

②①スポーツ推進課や公民館などにある申込書(☎からダウンロード可)に必要な事項を書き、7月14日～8月25日に直接、スポーツ推進課へ②7月14日～8月25日に「ランネット」ホームページで申し込みの上、参加費を入金。所定の振替用紙(郵便振替)でも申し込み可(郵便振替は8月4日まで)。

☎スポーツ推進課 ☎225-2531 ④1

あつぎマラソン

検索



参加者募集

宛名を書き、7月21日(消印有効)までに〒243-8511福祉総務課へ。宛名面以外に個人情報記載しないでください。《展示》8月8日～14日。アミューあつぎ。展示後、思いを共有したい人へ発送します。③福祉総務課 ☎225-2200。

## 国民年金保険料の免除と納付猶予制度

経済的な理由で納付が困難な場合、所得要件などを審査し、保険料の全額または一部を免除します。

《免除制度》全額免除または3段階(4分の1、半額、4分の3)の一部納付《納付猶予制度》50歳未満の方の保険料納付を猶予《対象期間》7月以降の分～(7月1日から受け付け)。過去分は申請日から2年1カ月前分まで。②年金手帳を持ち、直接、国保年金課 ☎225-2121へ。代理申請の場合は印鑑が必要。失業などの理由で申請する場合は、雇用保険受給資格者証または雇用保険被保険者離職票をお持ちください。

## 臨時福祉給付金の締め切りが迫っています

臨時福祉給付金(経済対策分)の申請は、7月21日までです。期限を過ぎると、給付金の申請はできません。対象見込みの方には申請書を郵送していますので、申請されていない方は、申請書に署名・押印し、必要書類を添えて、臨時福祉給付金担当まで提出してください。

《対象》平成28年度市民税(均等割)が非課税の方(課税されている方の扶養親族や生活保護受給

者などは除く)《支給額》1万5000円。③給付金コールセンター ☎225-2766。

## 介護保険負担割合証の更新

要介護・要支援認定を受けている方や総合事業の対象者に、介護保険負担割合証を7月中旬に郵送します。適用期間は、8月1日から平成30年7月31日までです。新しく要介護・要支援認定を申請された方には、認定結果の通知と併せて郵送します。③介護福祉課 ☎225-2393。

## ふれあいプラザの指定管理者を募集

《期間》平成30年4月1日～(3年間)《対象》法人またはその他の団体《募集要領の配布》7月1日～21日に環境事業課で配布《現地説明会》7月10日、13時30分～。環境センター。②環境事業課にある申請書(☎からダウンロード可)に必要な書類を添えて、7月21日～8月2日に環境事業課 ☎225-2790へ。

## 県道22号の夜間通行規制

歩道整備工事に伴い、7月上旬～9月下旬(日曜、祝日は除く)の21時～翌6時に県道22号戸田地内(戸沢橋西側、片側交互通行)の夜間通行規制を実施します。規制図や迂回路は県厚木土木事務所ホームページをご覧ください。③県厚木土木事務所 ☎223-1711。

## 7月は「社会を明るくする運動」強調月間

犯罪や非行のない明るい社会を築くため、各地区で街頭啓発活動を実施します。③福祉総務課 ☎225-2200。

**ホット** インターネットモニターからの意見を紹介  
 いいメール Hot E Mail  
 厚木市 インターネットモニター 検索

## 6月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆近場にハイキングコースがあるのにほとんど出掛けたことがなかったが、記事を読んで行ってみたいと思った/50代女性◆浸水の危険がある地域について、今後の対応策をもっと知りたい/40代女性◆小さなことから環境を守るための行動を実践していきたいと思った/70代男性◆地域の宝を守るために、献身的に活動をしている姿を知り、感動した/40代女性◆身近な街の話題を知ることができて良かった/50代女性

## 編集後記

下長谷こども食堂に来ていたご高齢の女性。「普段の食事は一人だし、あまり食べないんだけど、ここだと楽しくてつい食べ過ぎちゃうわね」と、嬉しそうにほほ笑んでいました。一日の出来事を一生懸命に話す子どもや、それを優しく見守る大人たちが集うこの場所は、まさに地域のよりどころとなっているようでした。地域のつながりが希薄になりがちといわれる今、こうした活動の輪が一人でも多くの人に広がるといいなと感じました/野本



8月5日19時  
打ち上げ  
開始

# あつぎ鮎まつり大花火大会 有料観覧席を販売 「みんなの花火」協賛金募集

1万発の花火を迫力満点の特等席で鑑賞してみませんか。オリジナルレジャーシート付きのチケットを販売します。併せて「みんなの花火」の協賛金も募集します。今年の花火大会を特別な思い出にしましょう。

## ★有料観覧席のチケット販売

《発売日》7月1日 10時～

《販売場所》セブン-イレブン全店

あゆコロちゃん  
オリジナルレジャーシート  
(90cm×120cm)



《価格》厚木側 = 2人席 6000円 4人席 1万円  
海老名側 = 2人席 5000円 3人席 6500円  
4人席 8000円 5人席 9500円

## 「みんなの花火」協賛金募集

集まった協賛金で花火を打ち上げます。各公民館または観光案内所、市観光協会、厚木商工会議所、観光振興課に募金箱を設置していますので、より大きく豪華な花火になるよう、ぜひご協力ください。1000円以上の協賛金で、記念品をプレゼントします。

☎観光振興課 ☎225-2820



打ち上げ会場  
相模川三川合流点  
(荒天時は翌日に順延)



消防士の指導で放水など貴重な体験ができる

## 夏休み消防体験教室

消防士から消火や救命の方法を学べる体験教室を開催します。憧れの消防士と触れ合えるチャンスです。ぜひご参加ください。

参加  
無料

日時 8月25日 ①9時～12時 ②13時～16時  
8月26日 ③9時30分～12時 ④13時～15時30分

会場 睦合分署

対象 市内または清川村在住の①②中学生③④小学4～6年生各回80人

内容 放水やロープの結び方、起震車で地震体験などをする消防訓練・防災体験コースと、応急手当や人工呼吸法を学ぶ救命講習コースに分かれた体験教室(両コースの受講も可。申し込み時に選択)

☎7月5日～21日に直接、消防本部予防課へ(電話での仮予約可)。先着順。

☎予防課 ☎223-9371

## 自然歳時記

● キササゲ ●  
ノウゼンカズラ科

河原近辺で見掛ける高さ10cmほどになる落葉高木。中国から薬用として渡来したものが野生化している帰化植物。葉は長い柄で対生。花は淡黄色で美しく円錐状に多数の花を付ける/玉川縁で見つけた。写真・文/吉田文雄



大山を見ながら玉川縁を歩いていると、トチノキの花のように円錐形に伸びた花穂が見えた。近づいてみると2～3cmほどの花が房状に並んでいた。よく見ると、柔らかいじょうご形の花は淡黄色で内側に紫色の斑点がある美しいキササゲの花だった。いつも長いササゲのような果

実が垂れ下がっているのを見掛けていたが、清楚な花の様子とその甘い香りに見掛けによらない美しさを感じた。

名前の由来は、冬期に葉が落ちてしまっても野菜のササゲに似た鞘状の果実が残るから。種子や鞘は、煎じて飲むと利尿作用などの薬用効果もある。

厚木市の人口  
(6月1日現在)

🏠 世帯数 9万7729世帯(前月比192世帯増)

👤 人口 22万5524人(前月比110人増)男11万6589人・女10万8935人